



としょかんだより 5月号

東峰学園（小学部）梶原弥生

新緑が空に映え、花々が咲き乱れ、さわやかな風が心地よい季節になりました。

5月は、一年中で最もさわやかで過ごしやすい季節です。「五月晴れ」の空を見上げてみましょう。

空はどんな色ですか？雲は、どんな形ですか？

おやこで読書を楽しもう！

4月23日～5月12日は「こどもの読書週間」でした。「絵本を通して親子でふれあえて良かった。」「なかなか一緒に本を読む機会がない中、ゆっくり『うちどく』をすることができました。気持ちを込めて上手に読んでくれました。」

「本の中の知らなかったことに二人で驚き、すごいねと声をかけながら読みました。」

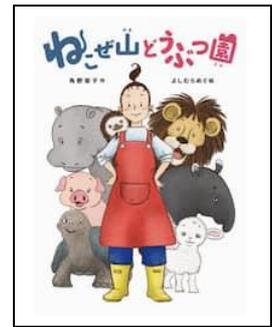
など楽しい時間を過ごした感想が書かれていました。お忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございました。



新しい本が届きました

「ねこぜ山どうぶつ園」(角野栄子/作)

リリーさんは、ねこぜ山どうぶつ園の園長さんです。ある日、ナマケモノのジットくんが、名前を変えてほしいと相談にきました。「ナマケモノ」という名前が本当になまけものみたいでいやだというのは。リリーさんはどんな名前を付けたのでしょうか。



「鳥になったきょうりゅうの話」全3巻(平山廉/監修)

大昔に絶滅したといわれる恐竜たちは、すべて絶滅したわけではありませんでした。実はその一部は姿を変えて、みなさんにも身近な生きものとして生きています。それは鳥です。恐竜の化石から羽毛が発見され、恐竜から鳥があらわれた証拠となりました。



「今日もピアノ・ピアノ」(有本綾/作)

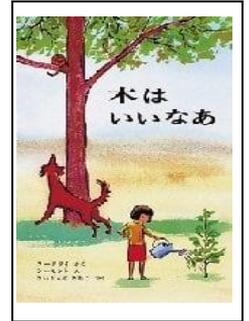
お母さんにゲーム機を没収されてしまった、小学6年生の海斗は、うかない気持ちで塾に向かう途中、駅にあるピアノで美しい音をつむぐおじいさんに出会いました。「このピアノは、だれが弾いてもいいみたいだよ。」次の日も、海斗はおじいさんとピアノが気になり駅に向かいました。



5月 は新緑の季節です。緑を楽しむ本を紹介합니다。

「木はいいなあ」(ユードリイ/作)

「木がたくさんあるのは、いいなあ。生き生きするもの。たった一本でもいいなあ。こかげができるもの。葉っぱは、いろんな遊びができるし。枝と幹は、木登りができるし、りんごもとれる。それから、それから・・・」
木があることの幸せを感じさせてくれる絵本です。



「木のすきなケイトさん」(H. ジョゼフ・ホプキンス/文)

ケイトは森の中で遊び、木が友達。木の勉強がなにより好きな女の子です。大学で科学を学び、教師となって、サンディエゴで働くことになりました。しかし、その町は木がほとんどない砂漠の町だったのです！



「もったいないばあさん もりへいく」(真珠まりこ/作)

もったいないばあさんは、男の子と春の森へ出かけます。花がいっぱい咲いている素敵な野原で遊ばないのは「もったいない」と言います。レンゲソウで髪飾りを作ったり、シロツメクサで指輪を作ったり・・・。
自然の中でいっぱい遊ぶ野遊びの本です。



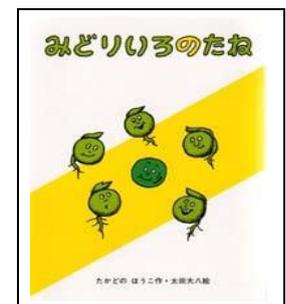
「リパの庭づくり」(福井さとこ/著)

ある日、花を育てるのが大好きなリュシカおばさんをたずねると、きれいだった庭には草がはえ、家はつたにおおわれていました。リパは友達達の野鳥やテントウムシ、クモ、ハチなどの生き物たちの力を借りて庭を生きかえらせます。



「みどりいろのたね」(たかどのほうこ/作)

まあちゃんたちのクラスでは、畑に種をまくことになりました。先生から5粒ずつ種をもらうと、まあちゃんは、種となめていたメロンあめを一緒にうめてしまいました。土の中では、まあちゃんが水をちっともやらないので、種たちはのどがかわいて、あめとケンカを始めました。すると・・・。



「エディのやさいばたけ」(サラ ガーランド/作)

「じぶんのはたけを つくってもいい？」エディの思いつきに、ママも大賛成。小さな妹のリリーもいっしょに、土を掘り返し、種まきをします。

エディの畑では、どんな野菜ができるのでしょうか。

